

# 平成26年度生徒指導にかかわる現状と課題

部長 植木 志郎

## 1 生徒指導の動向

県の平成26年度学校教育の重点事項3には、「生徒指導上の諸問題の解決のためには『いじめ見逃しゼロスクール』を中核として、家庭、地域、関係機関との確かな連携を図り、早期発見・即時対応に努める」「小・中学校9年間の長期的な視点に立った児童生徒の社会性育成の取組を更に進める」ことが重要と示されている。これを受け、各郡市では、その実態に応じた様々な取組が実施されている。

<各郡市の特徴的な取組>

### ① ネットトラブル等への対応の取組

ネットトラブルの増加や低年齢化が問題となっており、その現状や学校・家庭が果たすべき役割を学ぶことが必要である。上越や妙高、見附では、主に各学校の生徒指導担当者を対象とし、現状や危険性についての外部講師による講演会、及び市全体や各学校の児童の実態や取組にかかる情報共有・意見交換を実施した。

### ② 小中一貫で「いじめ見逃しゼロ県民運動」を推進する取組

「運動」が有効に機能し効果を上げるためには、9年間を見通した小中連携が求められる。柏崎刈羽では、小中合同の担当者会議や講演会、研修会、協議会等を教育委員会との連携を図りながら開催し、各校・各中学校区が目的や成果、課題を共有し、全教職員で生徒指導を進めるよう努めている。

### ③ 「学校いじめ防止基本方針」の実効性を高める取組

昨年度の「いじめ防止対策推進法」の施行を受け、各市町村・各学校でも「基本方針」を策定した。糸魚川では、市教育委員会指導主事を講師に、より実効性のあるものを目指し見直しを行うための研修を行った。市の方針との整合性を図りながら、中学校区単位で読み合わせと協議を行い、改善に役立てることができた。

### ④ 生徒指導上の諸問題を未然防止するための取組

いじめ・不登校等の解消には、早期発見・即時対応だけでなく、未然防止の取組が欠かせない。魚沼や燕西蒲では、未然防止・予防的取組を重視し、人間関係づくり、温かい学級づくり、教師の対応、段階ごとの対応などについて、各学校の取組紹介や講義・演習等とおして、実践的な研修を行った。

### ⑤ 保護者・地域等との連携を進める取組

諸問題を学校で抱え込むことなく、保護者・地域との情報連携・行動連携により解決に導くことが必要である。南魚沼では、小中合同の研究組織を基盤として、学校警察連絡協議会、更生保護施設、市教育委員会の協力を得ながら、情報交換や協議、訪問、講演など多様な機会を設け、連携の進め方について研修した。

### ⑥ かかわり合い、共に育つ集団づくりを目指す取組

人間関係形成力を高めるための児童支援や学級・学校集団づくりに目を向けた取組も行われた。新潟や長岡三島では、児童理解や授業づくりと生徒指導の一体化、児童会活動の充実等について、講演や研究授業、児童交歓会などとおして、理論と実践を関連付けた研修を実施した。

## 2 生徒指導の課題

文科省の平成25年度調査結果から、本県公立小学校を前年度と比較すると、いじめ認知件数は減少（719件→576件）、不登校発生率は増加（0.29%→0.34%）、暴力行為は倍増（58件→118件）である。今後も、校内指導体制を確立し、保護者・地域・関係機関との確かな連携の下、社会性育成の取組を更に進めることが求められている。